

# 宮代町立小中学校の適正配置及び 通学区域の編成等に関する審議会 第1回会議

- 1 開会
- 2 あいさつ
- 3 任命書交付
- 4 正副会長選出
- 5 諮問
- 6 議題 (1) 諮問事項(審議会の役割)について  
(2) 審議会スケジュールについて  
(3) 概要説明(宮代町の小中学校の現状)  
(4) 将来像「学校を核とした地域づくり」
- 7 質疑
- 8 その他

## (1) 諮問事項(審議会の役割)について

### ● 諮問事項の骨子(H25.5.16 宮代町教育委員会決定)

#### (1) 小中学校の適正規模及び学校数

児童生徒が適切な教育環境を享受できる学校規模、学校数

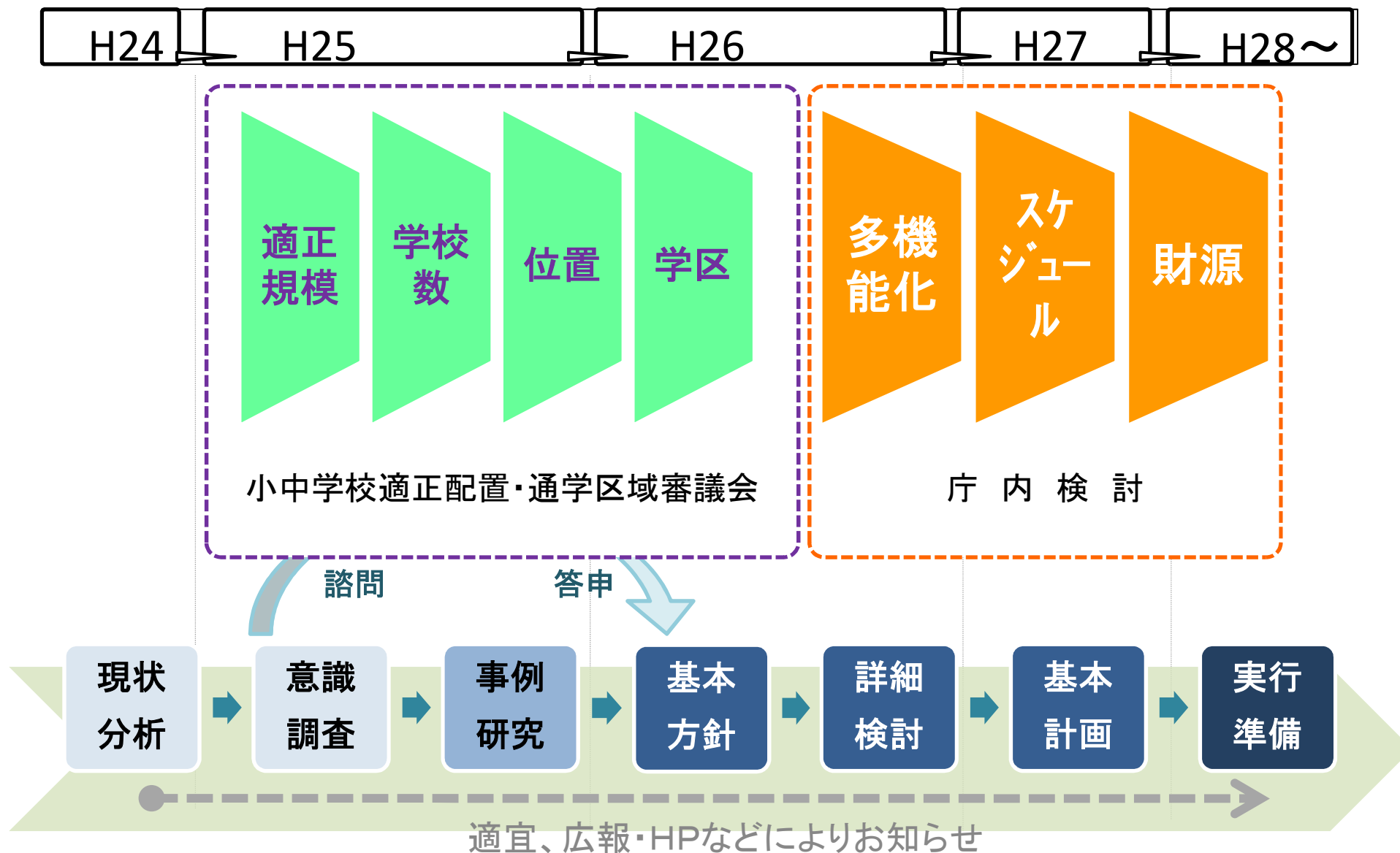
#### (2) 位置・通学区域

児童生徒の通学や地域のつながりに配慮した位置及び通学区域の編成

#### (3) 多機能化の可能性

学校施設を核とした、地域コミュニティ創造と住民福祉の向上

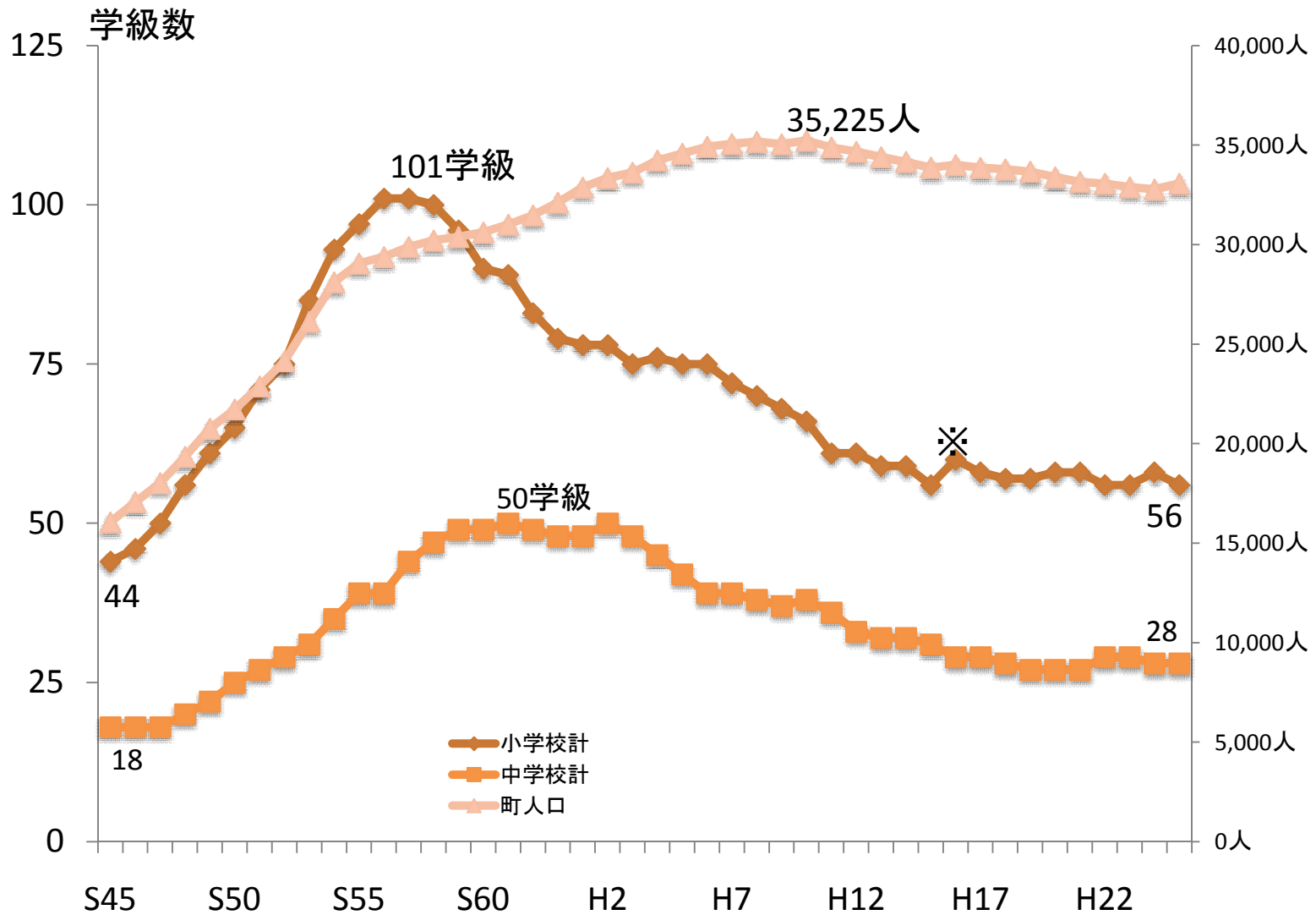
## (2) 審議会のスケジュール



### (3)-1 宮代町の人口と小中学校学級数の推移

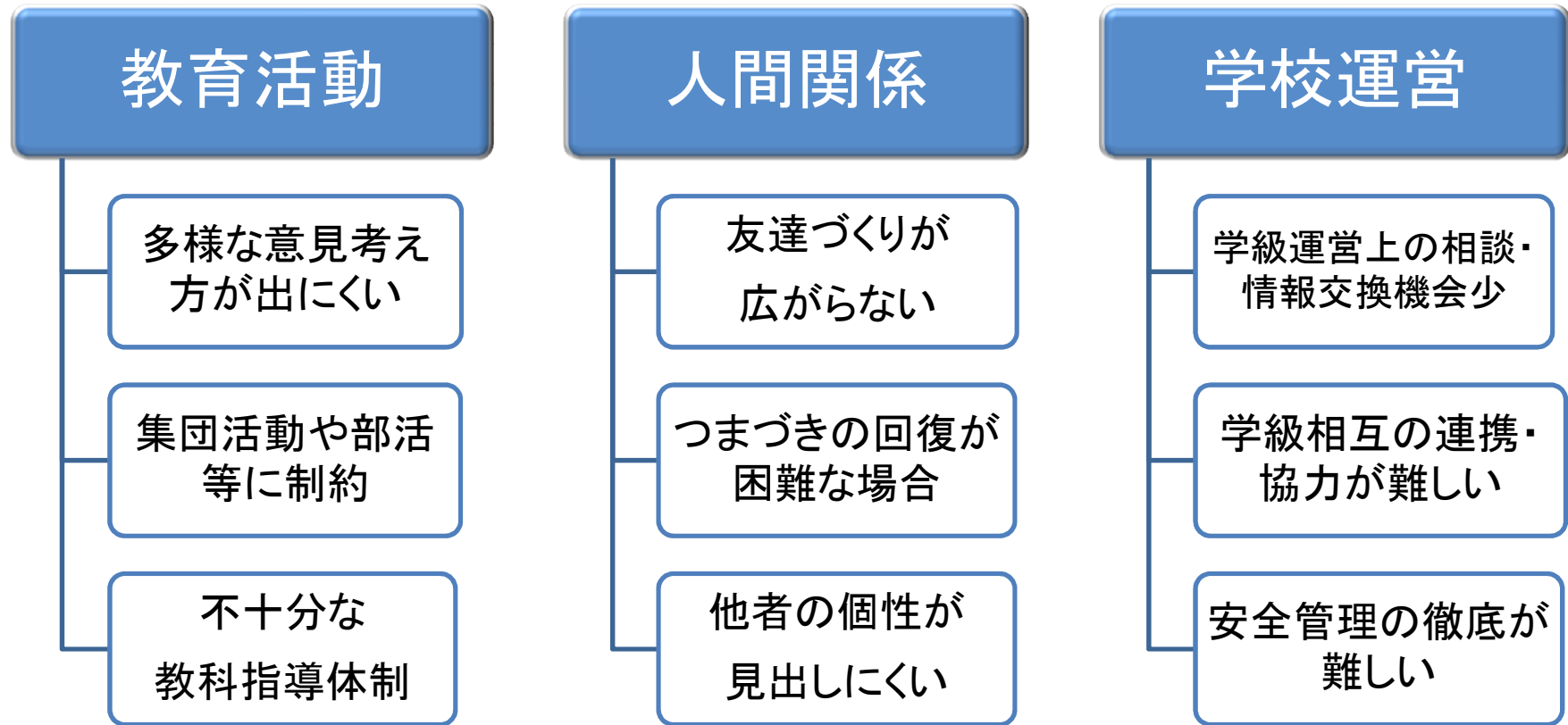
資料1・2

児童生徒の数は、昭和50年代をピークに、減少が続いています。



### (3)-2 小規模化により学校運営に難しい面が生じています

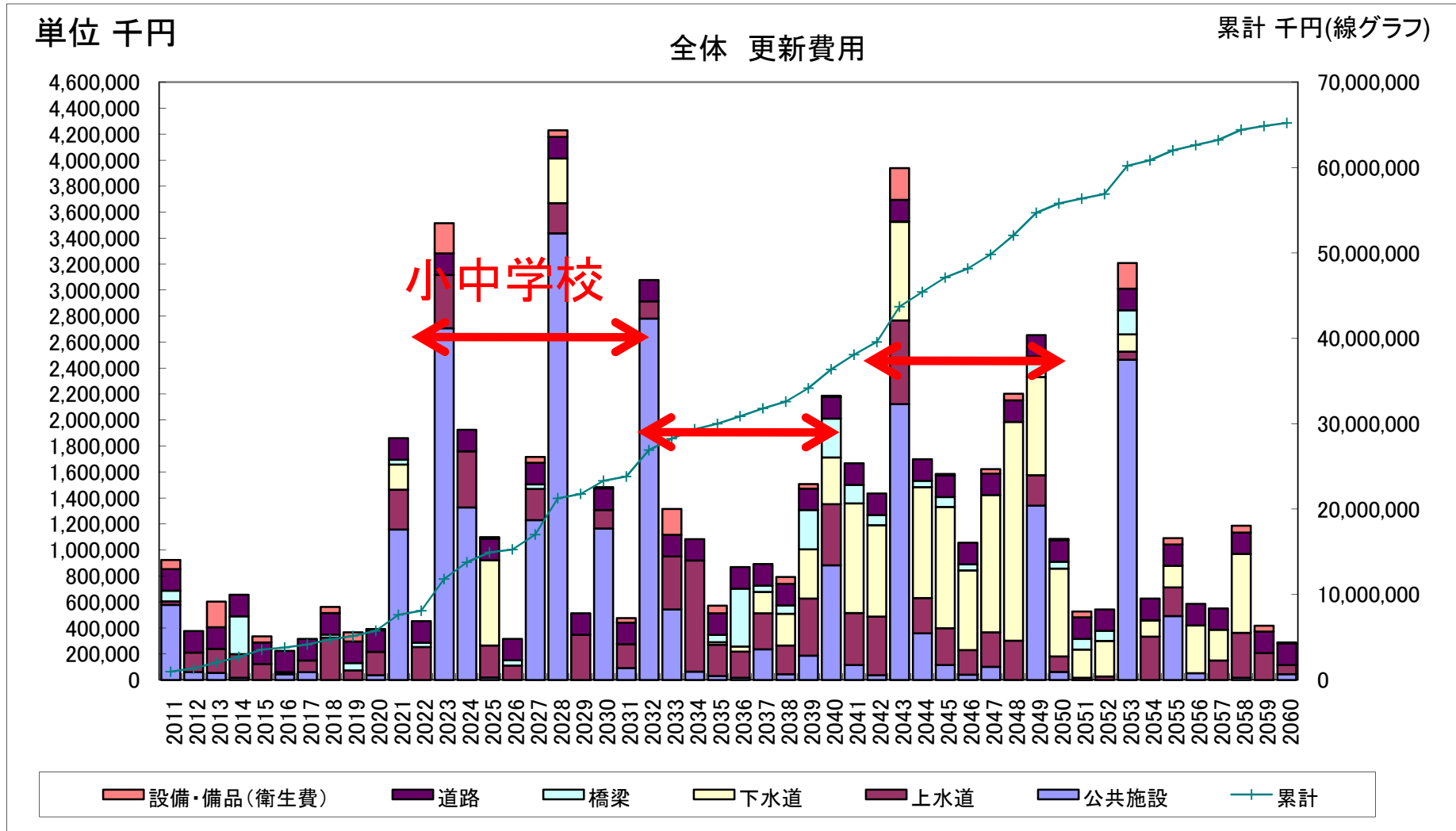
少子化による児童生徒数の減少、つまり学校の小規模化が進んでいます。  
この結果、学校運営にもいくつかの課題が生じています。



### (3)-3 建物の建替え、更新時期が近づいています

資料 3

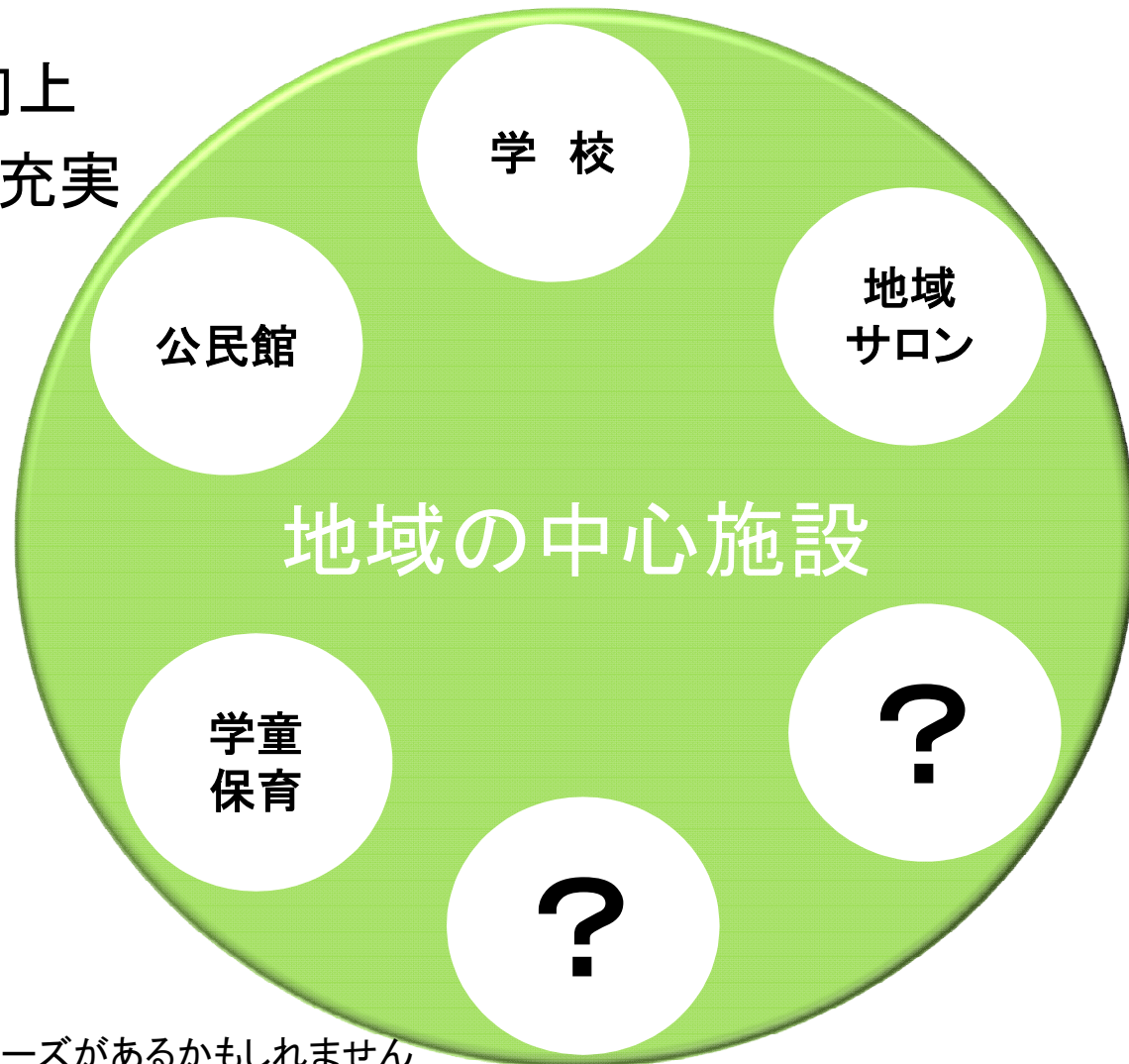
- ▼これまで投資、整備した施設の老朽化は年々進行
- ▼10年後から更新のピーク時期が到来(学校→上水→下水)



#### (4) 将来像 「学校を核とした地域づくり」

小中学校の再編・整備を通して、学校としての機能 ～教育環境向上～ は元より、地域全体がいきいきできること、が目標です。

- 教育環境の向上
- 施設、設備の充実
- 多機能化



? … 建替えの時には、新しいニーズがあるかもしれません

資料1 児童生徒数、学級数の推移

児童生徒数のピークは、東武鉄道3駅周辺の民間開発が一段した昭和50年代半ばです。現在（H25.5.1）の児童生徒総数は、その約40%相当まで減少しています。

■宮代町の人口

(単位:人)

	S50	S55	S60	H2	H7	H12	H17	H22
人口	21,725	29,052	30,611	32,891	35,058	34,666	33,868	32,891

※各年3/31現在、日本人のみの人口

■児童・生徒数

(単位:人)

	S50	S55	S60	H2	H7	H12	H17	H22
須賀小	759	1,475	1,154	1,003	812	587	474	477
百間小	618	1,135	1,080	734	731	638	588	455
東小	1,023	1,173	618	462	447	366	347	305
笠原小	0	0	638	437	299	259	249	295
小学校計	2,400	3,783	3,490	2,636	2,289	1,850	1,658	1,532
須賀中	288	540	580	648	507	404	265	241
百間中	605	948	752	594	440	387	311	281
前原中	0	0	587	523	384	358	270	271
中学校計	893	1,488	1,919	1,765	1,331	1,149	846	793

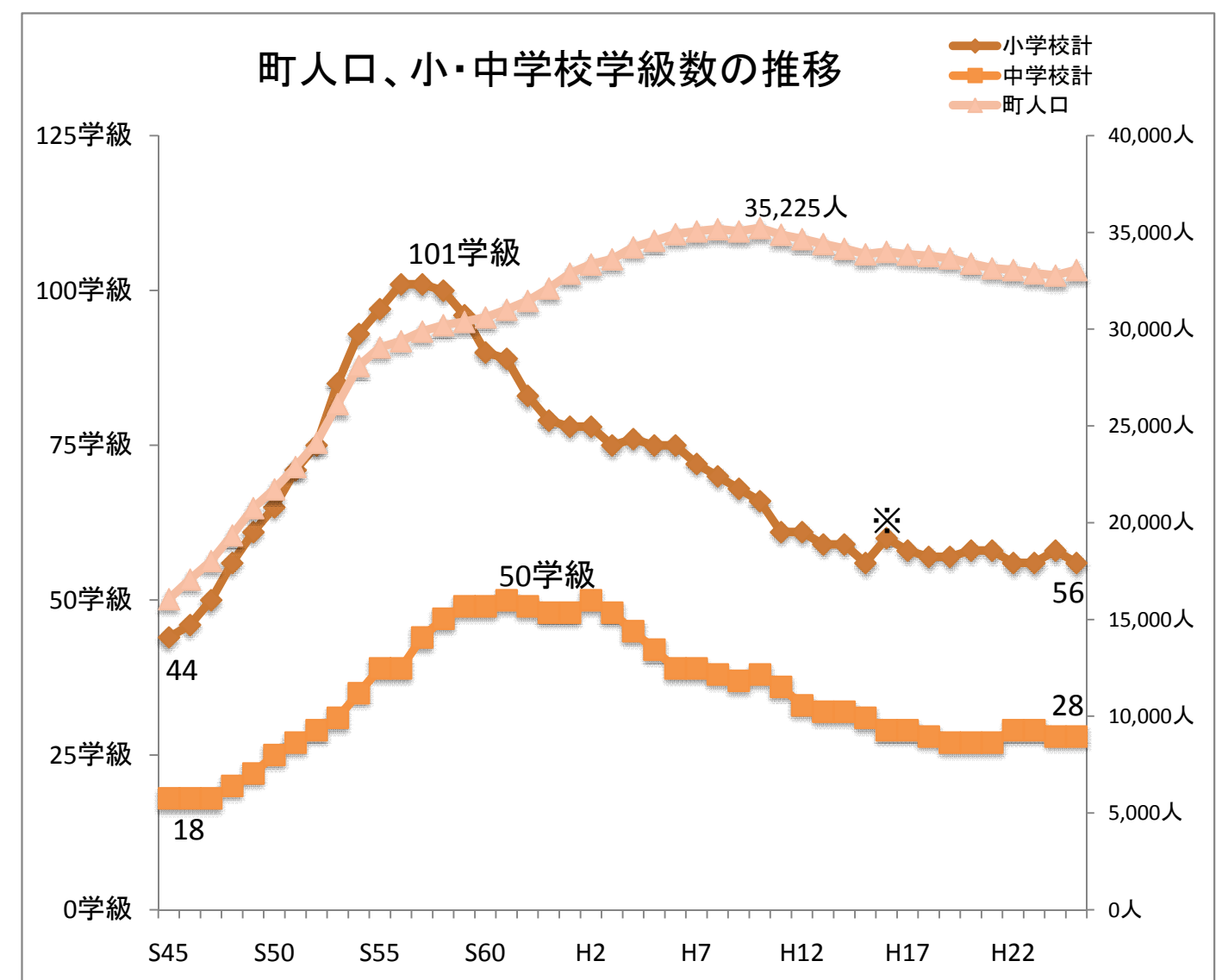
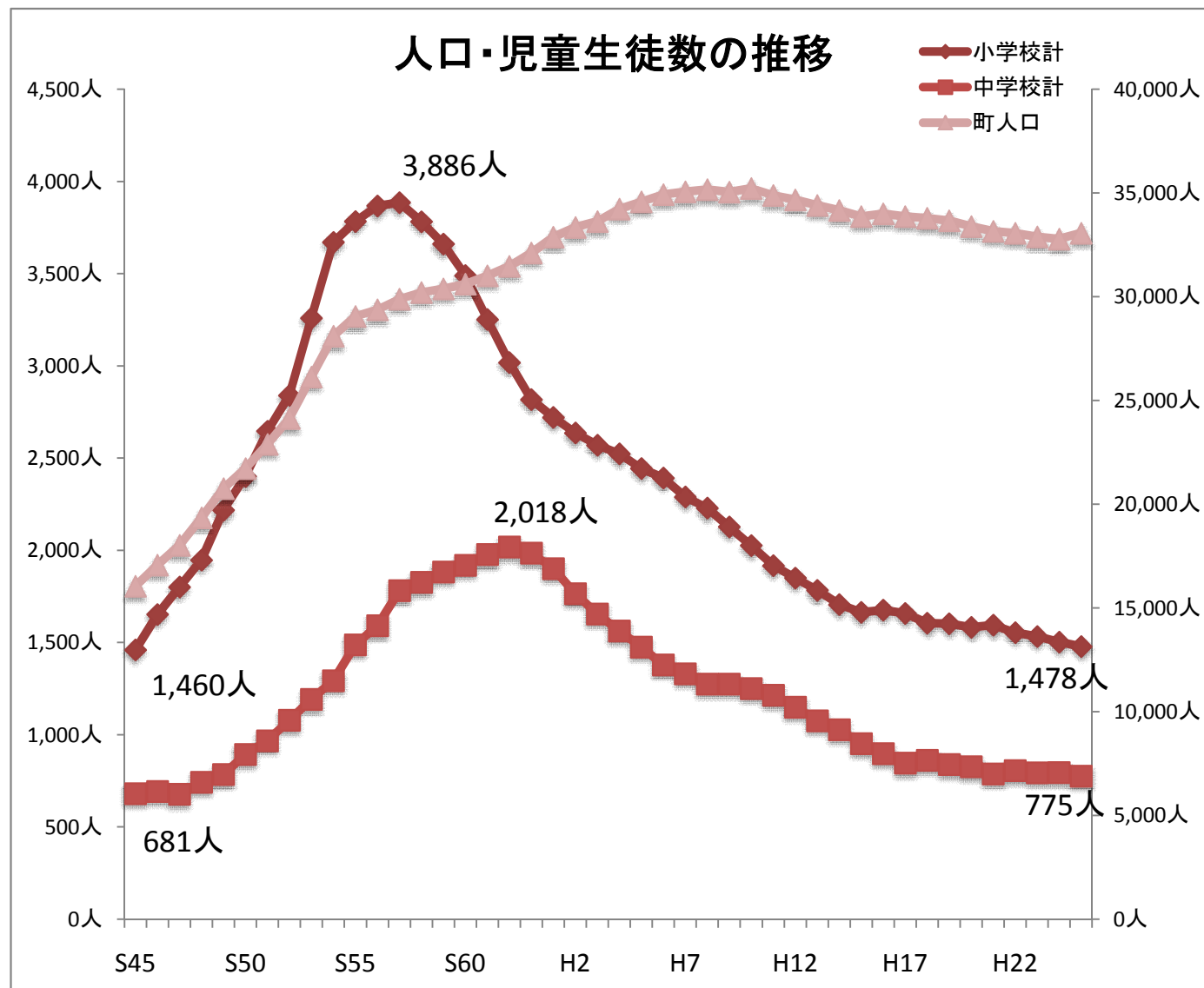
学級数は、グラフの期間中に「45人→40人」へと変わっているため児童、生徒数より減少割合がゆるやかです。

また、埼玉県では「小学1・2年生 35人」「中学1年生 38人」として編制、運営されています。（下図 ※）

■学級数

(単位:級)

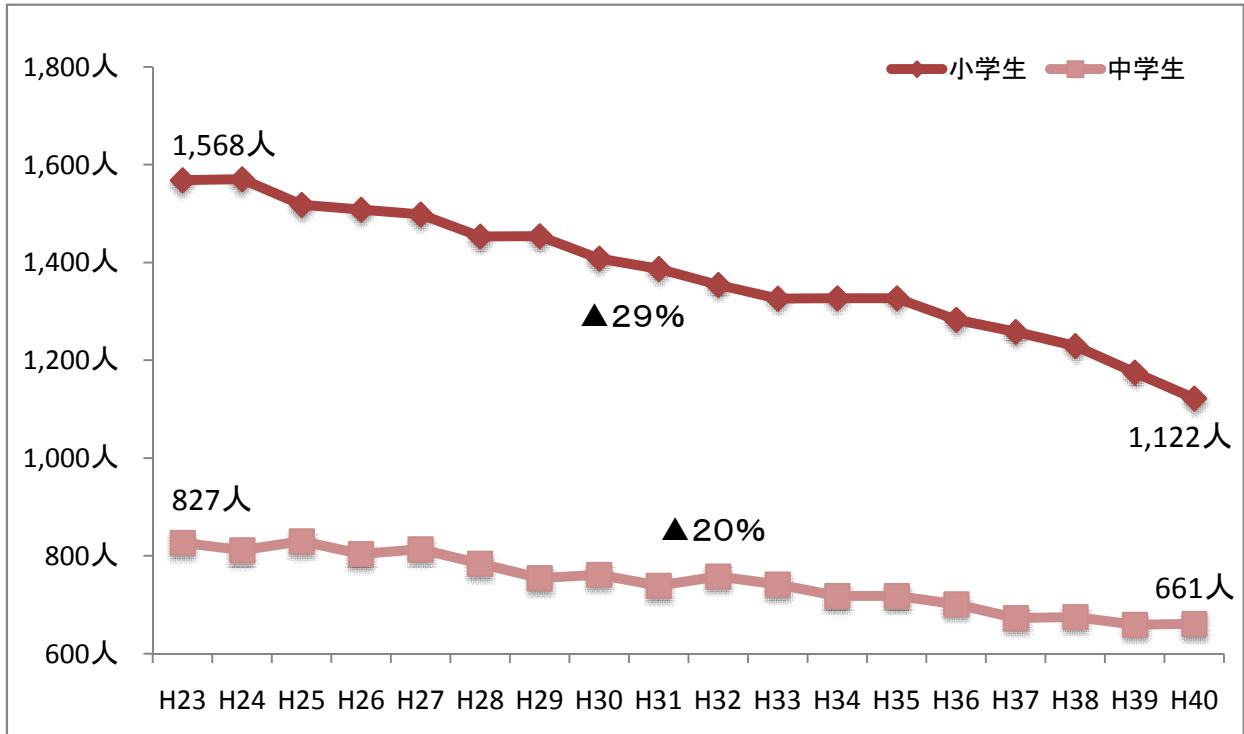
	S50	S55	S60	H2	H7	H12	H17	H22
須賀小	21	37	28	24	24	19	15	15
百間小	18	30	27	22	22	19	19	15
東小	26	30	17	15	15	13	13	13
笠原小	0	0	18	11	15	10	11	13
小学校計	65	97	90	72	76	61	58	56
須賀中	9	14	16	14	14	11	10	9
百間中	16	25	18	13	13	12	10	10
前原中	0	0	15	12	12	10	9	10
中学校計	25	39	49	39	39	33	29	29





【推計1】平成40年までの小学生（7-12歳）、中学生（13-15歳）の人口を推計（コホート法）

推計期間内の減少は、小学生約▲400人（29%減）、中学生約▲170人（約20%減）



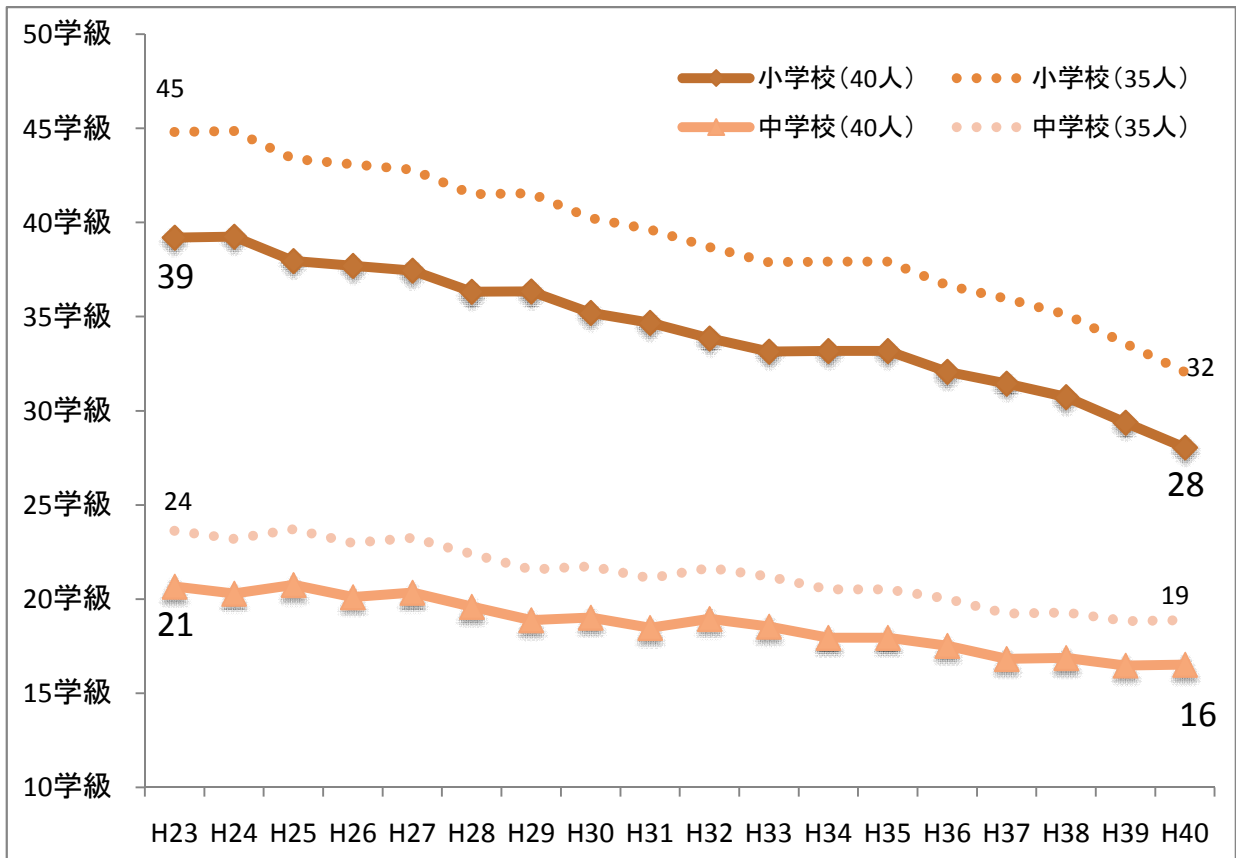
※各年の人口は1月1日を基準として算出

【推計2】推計期間内での「学級数」を推計

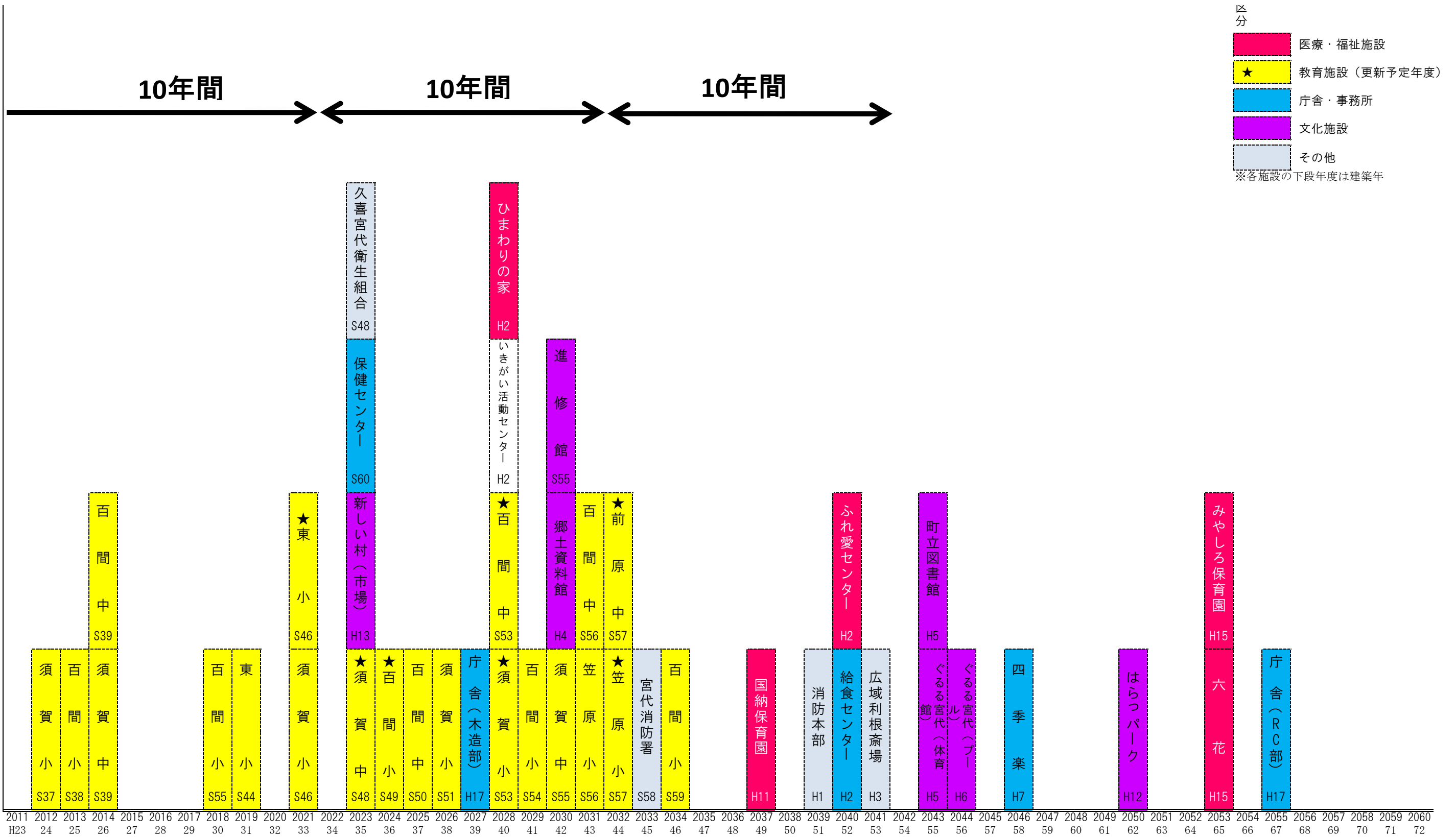
現行同様40人学級の場合、平成40年の1校あたり学級数は、

小学校 28学級 ÷ 4校 ≒ 7学級

中学校 16学級 ÷ 3校 ≒ 6学級 となり、単学級は不可避のようです。



■主要公共施設の更新予定年度（税法上の耐用年数を迎える年度をあらわしたもの）



※ 本表は、東洋大学との共同研究報告書の公共施設の更新投資額推計のグラフから、主要な施設を抽出したものです。

※ いずれも、試算の前提条件とした「税法上の耐用年数を迎える年度」に施設名称を計上しています。複数棟から成る学校施設は、主要な建物の更新年度（★印）を建替時期と想定しています。